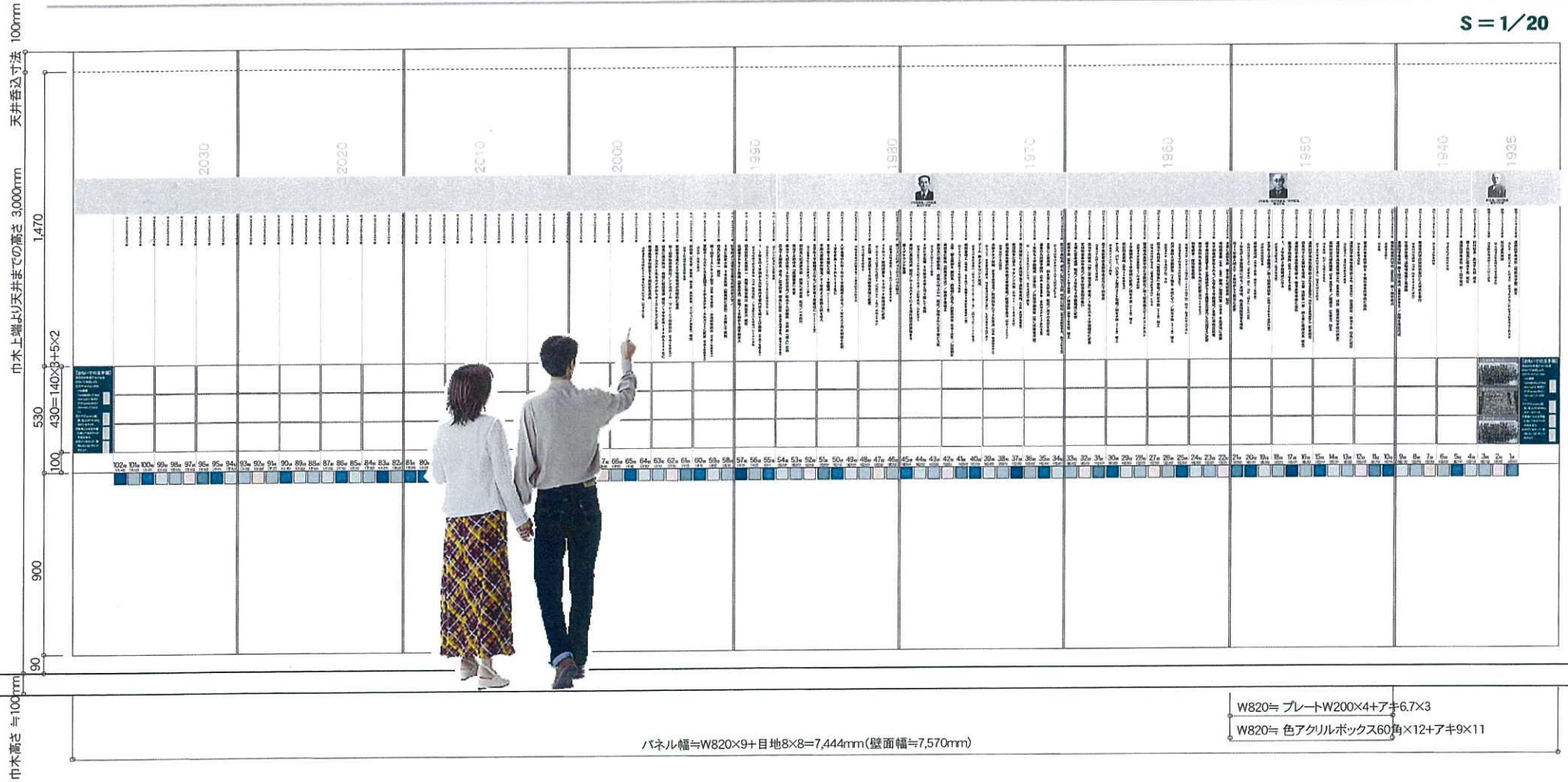


S = 1/20



アプローチ側から見る



同左 接近



体育館側から見る

【設置場所の印象から発想する「明るさ」を感じさせるための基本方針】

昼間のピロティは、どうしても暗く見えます。しかしながら、奥に明るい空間があるので、「艶」のある素材に光の反射をまともせ、「明るさ」を感じさせることはできます(中央写真にて、天井と設置予定壁の照り返しの違い=光のまとい方に注目)。その反射光に「色」の力を加え、存在感を倍加させることを提案します。

【具体的な提案】

- 各期のプレート以外に、さいころ状のアクリル製ボックスを、1個ずつ取付けることを提案します。
 (各期ごとに、うすすらと色のついた5mmアクリル板でボックス=立方体をつくる)。宝石箱あるいは玉手箱に見えるように。QRコードはその玉手箱に張ります。(できればQRコードでなく、もっと簡単なマークの方がおしゃやれなのでは…。参考:最近のビジュアル系の本)
 なお、玉手箱上部に埃がたまらないように、かつ袖を引っ掛けないように、下地パネルに凹凸をつくり、突出しないように工夫。(2ページ断面図参照)
- 各期プレートは<3>段で、柱間にちょうど収まります。よって、<3>の倍数、<3>年毎にひとくりできるようなレイアウトを提案します。
 <3>は、<3>学年を象徴しますので、グループごとに、自分の期が1年の時か、2年か、あるいは3年生の時か、いずれかの状態を再現する組み合わせとなります。その組み合わせが記憶をよびますきっかけをつくると思います。
- プレート高さは、巾木より9cm離れた高さから、既存天井より照明ボックス分10cm高く呑み込ませると、≒3mとなります。よって、各期プレート上部に相当なスペースができますので、ここに大学と同じような「年表」を表記することを提案します。高校に直接関係する事象を太字で、関連項目をやや小さめの細字で印字。年度ごとに記載、各期2行まで。玉手箱上部に表記する各期の数値には入学年度を添えます。例えば33期(昭42)。これと年表の年度を対応させます。
- 年表は、艶のあるシートに印刷しますので、暗いピロティでも、南、体育館側の明るさを反射します。アクリルボックスとともに、エントランス側から見て部分的に光(照り)を感じさせ、このメモリアルパネルの存在感を高めるはずで。